

研 修 名	平成19年度生涯学習ボランティアコーディネートセミナー		
主 催 者	栃木県総合教育センター		
所 在 地	〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町1070		
連 絡 先	TEL 028-665-7206 FAX 028-665-7219 URL http://www.tochigi-edu.ed.jp/rainbow-net/		
推 薦 支 援 センター等名	栃木県生涯学習ボランティアセンター (体験活動ボランティア活動支援センター)		
研 修 分 類	1 学校と地域の連携を内容とする研修プログラム		
	2 その他 (生涯学習ボランティアコーディネーター養成プログラム)		○
研 修 コー ス	1 基礎コース		2 スキルアップコース
	3 その他 (特に指定はない)		○

研修の実施に至る背景

生涯学習社会の中で、学習成果を具体的に生かすボランティア活動の重要性が認識されている。栃木県では平成4年に生涯学習推進センターとしての機能を持つ栃木県総合教育センターがオープンし、生涯学習部ならびに学習情報センターが設置された。平成9年には、学習情報センター内に栃木県生涯学習ボランティアセンターが設置された。また平成14年には、体験活動ボランティア活動支援センターが併設され現在に至っている。

生涯学習部では、主に県内で活躍する生涯学習関連の指導者の研修を行っている。平成5年からは国の「生涯学習ボランティア活動総合推進事業」を受けて、生涯学習ボランティア指導者研修、生涯学習ボランティアリーダー研修などを実施してきた。平成7年度には「21世紀の生涯学習社会‘とちぎ’づくり」に関する栃木県生涯学習審議会の答申を踏まえ、栃木県生涯学習推進計画「とちぎ学びプラン」二期計画が策定され、その中の施策として「生涯学習ボランティア活動推進事業の実施」が示された。また国の「地域生涯学習ボランティアコーディネートシステム整備充実事業」を受けて、平成12年より「生涯学習ボランティアコーディネートセミナー」を実施している。このセミナーを通して、ボランティア活動の希望者と受け入れる側のニーズを調整し、希望者に対して相談・助言を行うボランティアコーディネーターの養成および資質向上を図り、ひいては地域における生涯学習ボランティア活動の一層の支援・推進を図っている。

研修の企画・立案

生涯学習社会を迎えて、学習成果を具体的にボランティア活動に生かしていくためにはつなぐ視点が必要となる。このセミナーではボランティアの組織化やボランティア活動の拡大が図れるような人間関係の在り方、関係機関との協働を促進できるコーディネーターの資質について学ぶことをねらいとしている。上記のねらいを踏まえて5回シリーズで実施した。

初日は、ボランティアコーディネーターについての概論的な内容とし、ボランティアコーディネーターの果たす役割についての講話、県内の活動事例発表、参加者同士の情報交換を実施した。講話の講師選定に当たっては、全国体験活動ボランティア活動総合推進センターのHPの「コーディネーター・アドバイザー紹介」から情報を得た。

2日目は、午前中は近年各学校で導入が進められている学校支援ボランティアコーディネーターに関する講話を行った。こちらの講師も、担当職員が社会教育実践研究センターでの研修の際に得た情報を参考に依頼した。午後は当センターの生涯学習相談員による活動事例発表と、コーディネーターにとっては不可欠である、コミュニケーションスキルに関する演習を行った。演習は当センターの職員（社会教育主事）が行った。

3日目は現地研修を行った。現地研修については、例年どおり、先駆的な活動をしている県内のボランティアセンターを訪問し、コーディネーターとしての活動の実際について発表をしていただいた。また、当日は、現地研修会場へ県内の大学でボランティアセンターを運営している先生をお招きして講話を伺った。

4日目は単独1日日程で開催している「生涯学習ボランティア活動交流会」のプログラムに研修参加者が参加し、情報交換を実施したのちに講話をいただいた。

最終日は、コーディネーターとしてのスキルアップを目指し、ボランティア講座・研修の立案について講話と演習を通して学習した。最終日の演習は当センターの社会教育主事が担当した。

研修全体を通して、終日講話のみの研修にはならないよう、演習や施設見学などを組み合わせ、参加者が主体的に取り組めるように工夫した。

研修の内容

①主催及び共催

主 催 栃木県総合教育センター

②対象者及び定員

対象者 ボランティアグループの会員及び代表者、生涯学習ボランティアセンターに登録している個人及び団体の方、NPO関係者、県・市町等の社会教育関係団体の指導者、県・市町等の社会教育関係職員、教職員、ボランティア活動に関心のある方

定 員 50名

③研修プログラムの展開内容

平成19年6月21日（木）、7月9日（月）、7月20日（金）、8月5日（日）
8月30日（木）

会場：栃木県総合教育センター（7月20日（金）を除く）
日光市民活動支援センター（7月20日（金））

6/21	開講式	10:10 (110分) ＜講話・演習＞ ボランティアコーディネーターの果たす役割 (講師) 世田谷ボランティア協会 ボランティアコーディネーター 中家 由紀子	12:00 昼食	13:00 (50分) ＜活動事例発表＞ ボランティアコーディネーターの実際 (発表者) 佐野市総合ボランティアセンター所長 遠藤 茂	13:50 (100分) ＜情報交換＞ 私の生涯学習ボランティア グループでの情報交換	15:30	
7/9		10:00 (120分) ＜講話＞ 学びを支えるボランティアコーディネーター (講師) 東京都小平市立小平第二中学校 学校支援ボランティアコーディネーター 布 昭子	12:00 昼食	13:00 (25分) ＜活動事例発表＞ ボランティア相談・情報提供の実際 (発表者) 総合教育センター 生涯学習相談員 田中 正夫	13:25 休憩	13:35 (100分) ＜演習＞ 人と人をつなげるコミュニケーションについて考えよう (ファシリテーター) 総合教育センター 副主幹 林 博子	15:15
7/20	開会・事務連絡	10:10 (110分) ＜講話＞ 地域力を高める協働のあり方 (講師) IUHW (国際医療福祉大学) ボランティアセンター長 大石 剛史	12:00 昼食	13:30 (50分) ＜活動事例発表・質疑＞ コーディネーターの実際 (発表者) 日光市民活動支援センター センター長 前田 利一	14:20 (40分) ＜施設見学＞ 日光市民活動支援センター	15:00	
8/5	開会行事(※)	10:20 (100分) ＜分散会＞ みんなで語ろう 生涯学習ボランティア ○3つの分科会に分かれて実施 (司会・記録) 栃木県総合教育センターボランティア	12:00 ランチタイム	13:00 (150分) ＜講話＞ 生きがいとうるおいに満ちたボランティア活動を目指して (講師) 前大阪ボランティア協会 常務理事 太田 昌也		15:30 アンケート記入	

(※生涯学習ボランティア活動交流会開会行事)

8/30	10:00 (60分)	11:00 (60分)	12:00	13:00 (150分)	15:30
	<講話> コーディネーターの 視点を生かしたボラ ンティア講座・研修の 立案 総合教育センター 副主幹 船山 光隆	<演習> 元気な地域をつ くるために	昼 食	<演習> 元気な地域をつくるために ～ボランティア講座・研修プロ グラムの立案～ (助言者) 総合教育センター 副主幹 船山 光隆 社会教育主事 水沼 誠	閉 講 式

④研修の実施に当たってのポイント・留意点

生涯学習の学びの成果を発揮する場としてボランティア活動を活性化していくために大きな役割を担う、ボランティアコーディネーターの養成・資質向上に特化した研修内容とした。研修講師には実践経験豊かな講師を依頼し、必要とされる内容を精選した。さらに、現場の様子を理解してもらうために現地研修を実施した。

第4日目は単独1日日程で開催している「生涯学習ボランティア活動交流会」のプログラムに研修参加者が参加することとした。この交流会には「女性教育指導者研修」の受講者も参加しており、多様な立場の人々と交流できるよう工夫した。

また、昨今盛んに導入が進められている学校支援ボランティアについては、去年はコーディネーターの活動事例発表の中で取り上げたが、今回は学校支援ボランティアコーディネーターに関する講話を取り入れることで、より充実した内容にした。

研修の成果と今後の取組

生涯学習の学びの成果を発揮する場として、ボランティア活動を活性化していくために大きな役割を担うコーディネーターの養成・資質向上のための研修内容に特化したため、研修目的がぶれずに展開することができた。また、今回、学校支援ボランティアコーディネーターについて、より深く取り上げることができたので、その広がりにも更に期待できるようになった。研修講師には実践経験豊かな講師を依頼し、また必要とされる内容を精選したため、即実践に生かしていただける内容となった。

一方、コーディネーターとして事業を企画立案する際のポイントを学ぶ演習では、それぞれの立場ごとのテーマで展開することができたが、十分な時間を確保することができなかった。また、現場の様子を理解してもらうため現地研修を実施しているが、コーディネーターとしての活動発表と、質疑が活発に行われたこともあり、施設見学を十分に行えなかったことが残念であった。

次年度は、今年度の反省も含め、現地研修に代えて演習の時間を十分に確保してもよいと考えられる。また、次年度から「学校支援地域本部事業関係研修」が開始される。学校支援ボランティアコーディネーターの役割など、本研修と関連の深い分野が多いので、研修内容を吟味しながら相互に連携しあって、より良い研修プログラムを作っていきたい。



第1日目 講話・演習



第5日目 講話

執筆者職・氏名：栃木県総合教育センター

生涯学習部 社会教育主事 近藤 正

コーディネーターからの一言コメント

生涯学習コーディネーター養成研修として、『つなぐ』視点に焦点を絞った明確な位置づけがあり、その点を講義、事例発表、現地研修、演習そして参加者の情報交換と総合的・実践的に研修していることが大変良いと考える。参加者が意欲的に取り組める参加型の内容になっている。ただ、現地研修は施設見学を先に持ってきて、事例発表、そして講話の順番にした方が、思考が現場から出発した理論へ向かうことで、より効果的であったと思う。

(橋本 洋光)